

第3回サイバーポート検討WG（港湾インフラ分野）議事メモ

【意見交換】

（委員）

- ・ データベースを用いて施設の老朽化状況や利用状況をグラフ等で視覚的に表示できる「データの見える化」は有効な機能だ。
- ・ 調査・設計情報の共有は、施工業者にとって作業のスピードアップに繋がり、有効である。
- ・ 各施設の状態が見える化し、同種の施設でも状態の差異について一目でわかるようになれば、新設や補修を行う施工業者側に緊張感や競争原理が生じ、工事成果の質向上や技術力向上に繋がることも期待できるのではないか。

（委員）

- ・ 災害時の活用事例について、本日の説明資料に記載がなかったが、どう活用されるか教えて欲しい。
- ・ 来年度のスケジュールでは、秋までWGが開催されないが、その間、WGメンバーは何もしなくてよいのか。

（委員）

- ・ 港湾計画図のベクター画像（イラストレーターのデータ）をCADデータに容易に変換できるのか懸念している。
- ・ デモ版を踏まえた要望のうち、施設名の表示、印刷機能などは是非実現して欲しい。
- ・ 連携基盤活用イメージとして示された他港の情報の共有には大いに期待する。

（委員）

- ・ データ容量が気になる。利用性を考慮して、一部機能を実装した軽量版もご検討頂きたい。

【事務局】

- ・ 工事写真の共有については、どういった内容を共有することで使われるシステムにできるか、引き続き、意見交換をしていきたい。
- ・ 災害時の活用について、プロトタイプでは基本情報を扱うということで盛り込んでいないが、引き続き検討を進める。また、次回WGは秋頃であるが、プロトタイプの構築・検討状況についてWG委員には随時ご相談させていただく。
- ・ データの電子化は、国の方で実施する。なお、電子化する作業の中で、各港湾管理者には内容の確認をお願いする。
- ・ データ容量によるシステム動作への影響については、プロトタイプにおいて検証していきたい。

（委員）

- ・ 港湾インフラ分野は、港湾管理分野に比べて、普段の利用頻度が低いと考えられる。どのように活用するかイメージを固め、電子化にかかる作業量と利用頻度のバランスを考慮する必要がある。
- ・ 直轄と管理者の仕分けについても検討する必要がある。当港の場合は、ほとんどの事業が直轄によって行われており、こういった状況も考慮してシステムを構築することが重要。

(委員)

- ・ 当方で新たに作成するデータは、今後、連携基盤に合わせたフォーマットとしたい。どのようなデータフォーマットになるか、早めに教えていただくと手戻りの防止となる。
- ・ 維持管理情報に係る写真等は、維持管理 DB か連携基盤、あるいは外部の DB、どこに保存されるのか。
- ・ 連携基盤では、測量データなどの 3次元モデルが表示されると良い。

(委員)

- ・ 今後、港湾管理者の費用負担が発生するのか。発生するなら、いつ発生するのか。

(委員)

- ・ 当方で構築予定のプラットフォームにおいて、データフォーマットの検討も始まっていることから、連携基盤のデータフォーマットの共有を早めにして欲しい。
- ・ 測量・土質データの共有は有意義な機能であり、民間事業者のデータも共有出来るようにしたら良い。
- ・ 属性テーブルの表示部分で、集計機能があると、交付税算定などにも活用できて効率化に繋がる。

(委員)

- ・ 当方では、独自システムに GIS データを持っているので、連携について引き続き相談したい。また、連携基盤では全ての港湾施設の情報を電子化することになると思うので、当県の独自システムに登録されていない施設についても検討していきたい。
- ・ その際、独自データベースと連携基盤が自動で同期するとありがたい。

【事務局】

- ・ データを電子化した当初は精査の作業に負担を感じるかもしれないが、使われるシステムを構築するため、利用頻度の高い項目などについて相談したい。直轄と管理者の役割分担については、地域ごとに異なる事情もある。直轄から管理者へのデータの引継ぎや民間との共有も含めて、検討していく。
- ・ データフォーマットについてはなるべく早く示したい。写真等の保存先については、操作性も考慮して、今後ご相談しながら検討していく。3次元データについては、ダッシュボードに表示するか、レイヤーとして表示するかなど、操作性も含めて検討する。
- ・ 費用負担については引き続き検討する。
- ・ 属性データの集計については、管理者が分析しやすいようにデータの出力を行うことができるようにしたいが、共通して必要な機能についてはダッシュボードなど、基盤上の機能を設けることも検討

する。

- ・ GIS データについてはできるだけ提供していただけるとありがたい。台帳には全ての施設が記載されていると思うが、GIS 上に載せるのはどの施設にするかについては、今後整理していく。

(委員)

- ・ 連携基盤の構築により、我々の業務の仕方も大きく変わると感じた。引き続き必要な協力をさせていただく。

(委員)

- ・ 横浜港新本牧ふ頭整備事業において「港湾整備 BIM/CIM クラウド」の構築に取り組んでいるので、積極的な連携を検討して欲しい。設計情報や施工情報との連携は、整備事業や維持更新事業の生産性向上につながる。

(委員)

- ・ 災害時の活用についてイメージを示して欲しい。
- ・ 収録するデータが多くなると、検索機能が重要になってくる。使い勝手の良い検索機能を作っていただきたい。

(委員)

- ・ データ整備方針については、最初の整理が重要になる。また、主要な施設から順次取り組んでいくと良い。「新施設 ID」について、100 年変えなくていいようなコード体系を作って欲しい。
- ・ 検索機能は重要なので、利便性と作業量のバランスを考慮しつつ、メタデータの付与なども検討して欲しい。

(委員)

- ・ 政府全体のデジタルトランスフォーメーションの方針の中で、データ連携基盤の構築は重要な位置づけとなっている。政府全体の方針を参考に進めて欲しい。
- ・ 今回、港湾台帳などの核となるデータの構築が初めてなされることになるので、それを中心としたデータの連携・利活用により、業務プロセスの効率化に繋がるよう検討することが必要。

【事務局】

- ・ 具体的に作業を進めていく中で、3次元データについては、例えば設計コンサルタントの意見についても伺っていききたい。
- ・ 測量データをレイヤーとして表示し、構造モデルを断面図の代わりとするなど、作った 3次元データの成果を見やすい形で整理していく必要があると考えている。
- ・ 災害時の活用については、担当部局と相談しながら、インフラ分野の電子化したデータが活用できるように検討していく。検索機能については、データの整理の仕方を含め体系的な整理が必要と考えるので、必要なデータなどについてご意見をいただきたい。

- ・ データの整備方針については、長く使われるコード体系とするため、作業量も考慮の上、データ構造などについて検討する。
- ・ 政府内の他の取組みを参考にしながら進めていく。基礎情報の整理が重要であるのに加え、業務プロセスの見直しも含め、効率的な利活用がなされるよう進める。

(委員)

- ・ 使われるシステムにするためにも、構築後の活用イメージを明確にする必要がある。整備や維持管理の段階で活用するシーンが多く、これらの業務をサポートする機能として検索・集計機能が重要。
- ・ 実際に連携基盤を用いて普段の業務を試行してみることが重要。実際に使ってみることで課題がよく分かる。
- ・ 物流・管理との連携の観点でも「新施設 ID」の付与が重要。

(委員)

- ・ これまでの政府におけるデータ連携基盤の取組みを踏まえて、港湾関連データ連携基盤を構築する必要がある。
- ・ 政府全体の方針として、様々なデータの分野横断的な標準化（ベース・レジストリ）を進めることになっており、港湾分野についても他分野と連携できるよう議論を進めて欲しい。
- ・ また、政府全体で、「ガバメントクラウド」という、地方公共団体も使えるクラウドを整備する方針となっており、分野間でのデータ連携がより容易になると考えられるので、注視しながら検討して欲しい。

(座長)

- ・ 港湾インフラにおける計画、設計・施工、維持管理の業務の流れにおいて、業務間でデータをうまく連携させることによって、各業務で必要なデータが得られるように心がけて欲しい。
- ・ 先日の福島県沖地震においても、現地で施工断面・土質データが得られないということがあったので、災害時における連携基盤の役割が期待される。